研究ノート

デスカフェオンラインサミット（DeathCafeWeek 2020）の開催報告

吉川　直人

Death Cafe Online Summit (DeathCafeWeek 2020) Held report

Naoto Yoshikawa

Ⅰ．はじめに

現在日本の高齢化率は28.7%（2020年9月15日現在：総務省統計局）となり，未曽有の超高齢化がもたらす多死社会を背景に，死について語る場を求める人々も増え，2011年にイギリスから広がりが加速したデスカフェが，日本の各地で開催されるようになってきた[1)]。デスカフェとは，「死」をタブー視せずに受け入れ，カジュアルに語り合う場である[2)]。死について話したい人がいて，話す場があれば成立し，公民館，貸会議室，喫茶店，福祉施設，教育機関，寺院，オンラインなどさまざまな場所で行われている。死に関する話題は，一人称の死「私の死」，二人称の死「近しい者の死」，三人称の死「だれかの死」がある中で，多死社会に直面しながら，死を受容する際の心構え，死に場所，逝き方，残された者のグリーフケアといった，死に関する多くの問いが生起している。その問いを対話する場として，死に関する話題提供や独自に開発されたワークを用いるなど，多様な形態のデスカフェが各地で行われている[3)]。

しかし，国内で独自な発展を見せてはいるが，デスカフェ開催者間の交流は盛んとは言えない状況にある。そこで，デスカフェ開催者間で「ゆるやかなつながり」を作り，デスカフェのさらなる広まりや今後の多死社会におけるデスカフェの役割を検討する機会として，デスカフェオンラインサミット（DeathCafeWeek 2020）を企画，実施した。

Ⅱ．方法

看護師，カウンセラー，社会福祉法人，僧侶，葬儀社，図書館司書が主催する6つのデスカフェから9人のデスカフェ運営者と共にデスカフェサミット運営委員会を立ち上げ，コロナ禍の現状に即した実施形態であるオンライン開催（zoom使用）によるDeathCafeWeek 2020として9月21日～9月27日の期間に実施した。また，国内のデスカフェから，企画趣旨に賛同するデスカフェ主催者を募り，多様なデスカフェがオンライン上で再現できるデスカフェの見本市として企画設計を行った。さらに，終末期ケア，自殺対策に関する講演会に加え，国内の実践事例を紹介し，デスカフェについてより詳しく知りたい人，デスカフェの開催を希望している人のニーズに応えるプログラムを設けた。

Ⅲ．結果及び考察

参加したデスカフェは14団体となり，参加者は延べ400人超となった。オンラインデスカフェでは，対話のみ（テーマあり／なし），対話＋話題提供，対話＋ワークショップの3つの形態が行われ，対面のデスカフェで行っていた形態の再現ができた。zoomのブレークアウトセッション機能や画面共有機能により，カードゲーム，イラスト，朗読等を用いたワークショップも行われた。事例紹介においては，展開方法や取り上げるワークなどに特色のあるデスカフェを5事例紹介し，デスカフェ参加希望及び開催希望のある人から，デスカフェで何をやっているのか，やれるのか，イメージが鮮明になったとのアンケートの回答が見られた。

実施後のアンケートでは，参加者の90%以上が満足また非常に満足したとの回答であり，今後のデスカフェへの参加希望や自らのデスカフェ開催意欲への後押しになったとの回答が複数見られた。また，このような場を探していた，求めていたとの回答からも，死を語る場を求めている人に対して，デスカフェの存在を広める機会となった。開催者間での連携やコラボレーションが行われるなど，国内で無かったデスカフェネットワークの構築の端緒となった。

京都女子大学家政学部生活福祉学科

表 1　DeathCafeWeek 2020 プログラム

	午前　10:00-12:00	午後　14:00-16:00	夜　19:00-21:00
9 月 21 日 （月・祝日）	オープニング（運営委員会） DeathCafeWEEK への想い ゲスト　山崎浩司氏 （信州大学医学部　保健学科　准教授） 「デスカフェがつなぐ新たな地縁」	国内の多様なデスカフェの事例紹介	デス・カフェ＠東京 ～死を巡り，語るカフェ～
9 月 22 日 （火・祝日）	Death Cafe	ライフ＆デスカフェ Berry	「人生最終段階の食支援　お食い締め」 講師　牧野日和氏 （愛知学院大学　心身科学部　准教授）
9 月 23 日 （水）		sansien de café 事例の紹介	さかもとさんのデスカフェ ～わたしにとっての幸せな死って？～
9 月 24 日 （木）		ワカゾーのデスカフェ ～弔辞をつくってみる～	ワカゾーのデスカフェ ～世界各国の死生観に光をあてる～
9 月 25 日 （金）	Cafe MorteI ＆対話カフェ Tokyo～Yokohama コラボデスカフェ ～哀しみの分かち合い～	Cafe MorteI ＆対話カフェ Tokyo～Yokohama（死の読書会 1）	Cafe MorteI ＆対話カフェ Tokyo～Yokohama（死の読書会 2）
9 月 26 日 （土）	カレンデュラカフェ	マザーリーフ・デスカフェ	デスデザイン・カフェ
9 月 27 日 （日）	自殺対策関連特別企画 下手くそやけどなんとか生きてるねん。 （特別講師：渡辺洋次郎）	グラレコと共にひらく “見える”デスカフェ	クロージング（運営委員会） DeathCafe のこれから ゲスト　林美枝子氏 （日本医療大学　保健医療学部　教授） 「死のドゥーラとデスカフェの役割」

表 2　DeathCafeWeek 2020 開催結果

総参加人数	参加 デスカフェ	オンライン デスカフェ 開催数	オンラインデスカフェの形態・開催数	実施内容
述べ 400 人超	14 団体	13 回	対話のみ（テーマあり／なし）5 対話＋話題提供 3 対話＋ワークショップ 5	オンラインデスカフェ，デスカフェ事例紹介 終末期ケア・自殺対策に関する講演

このデスカフェサミット以前，国内には，組織的にデスカフェの開催，継続をバックアップする仕組みは存在しなかった。そのため，草の根的に，自発的的に，自然発生的に広まっていったことが特徴であり，既存の開催者の SNS 等での発信を参考に，アレンジを加えさまざまなデスカフェが広まっていった経緯がある。現在は，初めにデスカフェを行った第一世代を参考にした第二世代，また第二世代を参考にした第三世代が活動を継続している。しかし，看護師や，福祉施設従事者などがデスカフェを開きたいと既存のデスカフェに参加しても，すぐには開催に結びつかないケースもあった。終末期ケア，死別のケアなど死に関する専門性を持つ者にとっても，死を語る場を開くことは，場づくり，ファシリテーション，協力者，発信手段といったいくつものハードルがある。デスカフェ開催にあたり，資格や経験の有無，検定合格等の条件はないものの，このハードルを乗り越えることがデスカフェ開催のための要件である。

一方，オンラインの活用はデスカフェ開催への参入ハードルを下げ，さらなるデスカフェ開催者の増加が予想される。多死社会の進展により死に向き合う現場を持つ専門職の人々はより強くデスカフェの必要性を感じている。デスカフェは，その定義も汎用性のあるプログラムも定まっていないので，開催者のアレンジの自由度が高いことも，これまでデスカフェが広まり，今後も増えていくと予想できる要因の一つである。

地域社会のつながりが希薄化し，弱くなっている現

在，地縁，血縁の強固な結びつきを再度復活させることは容易ではない。また，コロナ以降の生活様式の変化を考慮に入れれば，社会が共有する大切なテーマ（死，病，子育て，介護）を共有できる場がなく孤立しがちな人もいるかもしれない。小さなコミュニティ活動に参加してウィークタイズを複数もち，ウィークタイズとストロングタイズ，どちらの利点も生かせる環境がこれからの共生社会には適応するのではないかと考えられる。この意味でデスカフェもその場限り，一回限りの単発イベントではなく，継続的に行われることにより，人に浸透し，地域に浸透し，社会資源へと昇華していくのではないか。その場に集まったさまざまな人たちが，共通のテーマについて話し合い，なんとなく顔見知りになりながら，家庭や学校，職場などでは得られない関係性が生まれるのが，対話型カフェの一つの魅力である。またそれが地域単位で行われたら，地域のこれまで出会わなかった人たちとの出会いを産み出すという可能性もある。この集まりには，生活スタイルを問われることがないため，日ごろは孤立しがちな生活をしている人が来て，誰かとの繋がりを感じられる時間を作れる。そうした関係から，将来，お互いを助け合うような関係の構築に繋がっていく可能性も秘めている。コロナショックにより広まった，オンライン形態のデスカフェだけでなく，今後は，リアルな場でのデスカフェと融合したハイブリッド形態のデスカフェの広まりも予想される。

謝　辞

本実践にあたり，ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

文　献

1）吉川直人：国内のデスカフェの現状と可能性：多死社会を支えるつながりの場の構築，京都女子大学生活福祉学科紀要，2020，(15)，pp39–44
2）Death Café https://deathcafe.com/
3）萩原真由美，吉川直人，中藤崇，柴田博，長田久雄：国内デスカフェの多様性と動向：（デスカフェオンラインサミット）DeathCafeWeek 2020 の事例報告を含めて，第 15 回日本応用老年学会，2020，p35